



All Toyota Green Wave Project

All Toyota Harmony with Nature Working

オールトヨタ グリーンウェーブ プロジェクト

2016年発行[Vol.1]でグリーンウェーブプロジェクトについて紹介しました。[Vol.2]では国内に広がりはじめたオールトヨタの活動を紹介します。自分達の手で地球や生態系にできることがあります。職場・家庭・地域で身近なことから始めましょう。



生物多様性とは？

「生物多様性」とは、人類も含めた「生きものたちの豊かな個性とつながり」のことを言います。私たちの暮らしは、生物多様性がもたらす自然循環によって生み出される多くの恩恵(自然の恵み)によって支えられています。生活に欠かせない空気や水やエネルギー、食べ物や衣服の原料、自然とのふれあいなど、全て生物多様性がもたらす自然の恵みから得ているものです。



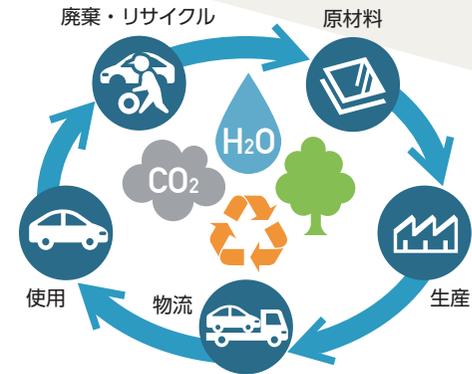
もし、生物多様性が失われてしまったら？

地球上から森や小鳥・魚・昆虫などが消えてしまって、人間だけが残ったと想像してみてください。ビルやコンピューターがあっても人間だけでは生きていけません。たとえば食べ物は全て生きものです。生きていくのに必要な酸素は森から生まれます。経済活動における豊かな暮らしは、生物多様性が生み出す恵みにささえられています。生物多様性が今のスピードで壊れると、最終的には人類さえも絶滅の可能性があるということです。



自動車産業と生物多様性のかかわり

生物多様性との関係が薄そうな自動車産業も、必要な資源の多くは、自然界から調達されています。その原材料の採取地が野生動物の生息地である場合、原材料調達を通じて生物多様性に影響を与えています。また、工場建設をはじめとする土地利用や、製品の使用や事業活動によって排出される温室効果ガスなど、直接または間接的に生物多様性へ影響を与えています。



「グリーンウェーブ プロジェクト」⇒ 地域をつなぐ自然共生活動



チャレンジ6の具体的な活動のひとつ「グリーンウェーブ プロジェクト」は、生物多様性・生態系の回復・増加に資する活動です。オールトヨタでオールトヨタ自然共生ワーキンググループを立ち上げ、国内・海外各地で活動の輪を広げていきます。人と人、場所、モノをつないできたのが自動車産業です。だからこそ、私たちは生息域の分断化が進む中、生息域をつなぎ、生物多様性による恩恵を次の世代にも引き継いでいくことが、重要と考えています。

自然があるから生きていける。
この想いを忘れることなく、
持続可能な社会の実現にチャレンジ。

2016年5月28日(土)宮城県岩沼市で行われた「第4回千年希望の丘の植樹祭」へ、オールトヨタ自然共生ワーキンググループで参加。東日本大震災で被害を受けた沿岸部に、10kmの緑の堤防を造り、避難場所と減災を図った自然との共生プロジェクトです。今回20社72人とトヨタ環境活動助成プログラム支援NPO「どんぐりモンゴリ」の103人、合計175人が参加し、東北の種から愛知で育てた苗約2,500本を植樹しました。個々で活動してきたオールトヨタ各社が、工場の森づくりなどで培った植樹ノウハウを活かし、初めて一団団結した第1回「つなぐ」活動です。トヨタ自動車東日本(株)を含む地元企業も参加し、愛知と東北の活動をつなぎました。



植樹活動

植樹リーダーの熱い指導のもと、初めて植樹体験するメンバーも自社活動で社員を指導できるよう、熱心に習得。晴天の宮城の空にオールトヨタの横断幕を掲げました。



1 植樹前。



2 愛知県で東北の種から育てた苗。



3 子どもたちも一生懸命育てた苗を植えます。



4 植樹手順をレクチャー済のため、手際よくどんどん植えていく。



5 敷詰めた葉が水を保持し、縄が苗を守る。



6 来年以降もこの苗の成長を見届けていきたい。

2016年10月29日(土)、愛知県名古屋市 藤前干潟・庄内川・新川河口付近で行われた「藤前干潟クリーン大作戦」に参加。本活動は2004年から始まり、市民・学生・企業団体・行政などによる「協働」の河川清掃活動です。当ワーキングは、第2回の「つなぐ」活動として団結し、15社21名で参加。愛知県に多くの工場・事業所をもつオールトヨタとして、地域活動とのつながりを通じて生物多様性や生態系の維持・保全などに取り組む意義ある活動です。



クリーン活動

ヨシが多く茂る川岸には、不法投棄や河川上流からのペットボトルやビン・缶類、インスタント食品の容器などのごみが散らばっていました。細かく分散して拾いきれない発泡スチロールなど、鳥が誤って飲み込むことを考えると梱包材を見直す必要がある、との参加者からの声もありました。作業後には見違えるほどきれいになりました。



干潟観察会

日本有数の渡り鳥の飛来地でラムサール条約の登録地である藤前干潟は、潮が最も引いた時には238ha(ナゴヤドーム約50個分)の干潟が現れます。トビハゼやヤマトオサガニ、希少となった貝など、貴重な生きものを観察することができます。対岸にはカモの群れや鶺鴒、シギなど、多くの鳥が羽を休めており、この豊かな自然を未来につなげていく貴重さ、大切さを実感しました。



緑をつなぐ活動と仲間づくり

三五の森づくりは2006年11月にECO35(名古屋市)からスタート。無機質な工場跡地に熱田神宮をモデルにした森づくり、水辺環境の創出によって都市部に生きものが住める環境の再生を実現しました。その後、工場の森づくりを国内外のグループ会社へ展開し、今では国内11拠点、海外7拠点に土地本来の樹種を植える活動を行っています。

言うまでもなく1社でできる活動には限りがあります。特に、グローバル規模の課題である自然共生活動に取り組んでいくには、仲間をつくり、力を合わせていくことが不可欠です。そんな中、オールトヨタ自然共生ワーキンググループ23社の中に入って活動を行っていくことを大変嬉しく思っています。昨年は三五が苗木提供支援をしている岩沼市植樹祭にオールトヨタ有志で参加しました。今後もオールトヨタ参加会社と協調性を持って活動を進めていきます。



後藤 幸雄 GOTO YUKIO

三五コーポレーション(株) 森づくり事務局長
横浜国立大学名誉教授 宮脇昭氏の指導のもと、
企業の森づくり活動を始め、自然共生活動を推進中。
写真右：後藤事務局長



グリーンウェーブプロジェクトを進めていく上でも大事なことは、同じ志を持った仲間づくりです。市民・NPO・行政・大学や研究機関の方々と連携して、つなぐ活動の輪を拡げていき、プロジェクトを確実に進めることによって、自然環境が豊かになり、またその土地本来の生きものがかえてくることを願っています。

人と自然が共生する未来へ

2016年度から開始したオールトヨタグリーンウェーブプロジェクト。参加会社同士のつながりが実を結び、中部エリアを中心に日本全国へと広がっています。今後はACTION, LOCATION, GROUPでさらに仲間をつくり、「つなぐ」活動を推進していきます。この活動によって、生息域が広がって生態系保全につながり、さらには人と自然が共生できるサステイナブルな社会づくりを目指します。



一人ひとりの活動が



大きな輪になり

地域を、日本を
つなげていきます。

今後の活動

2016年度の活動事例をウラ面でご紹介します

オールトヨタ グリーンウェーブ プロジェクト 2016年度 チャレンジMAP

オールトヨタ自然共生ワーキング
グループ参加23社で2016年度に
100以上の活動を日本全国で
実施しました。



9 九州エリア

森林保全・里山整備 愛知ターゲット No. 1・5・7

トヨタ自動車九州(株)
農村景観100選地区の
景観保全活動
実施日 2016年(年6回)
場所 福岡県知多町等寺地区

実績 参加人数:102名
累計参加人数:276名
(2014年から延べ22回実施)

行政と協働し、従業員によって耕田のあぜの
草刈り・田植え・そばの種まき・稲刈りを行い、
棚田の景観を維持する活動を地元と共に実施
しています。

参加会社
オールトヨタ自然共生
ワーキンググループ23社

愛三工業(株)、アイシン・エーアイ(株)、アイシン・
エーダブリュ(株)、アイシン精機(株)、アイシン
高丘(株)、愛知製鋼(株)、岐阜車体工業(株)、
三五コーポレーション(株)、(株)ジェイテクト、
ダイハツ工業(株)、(株)デンソー、(株)東海理化、
豊田合成(株)、トヨタ自動車(株)、トヨタ自動車
九州(株)、トヨタ自動車東日本(株)、トヨタ自動車
北海道(株)、(株)豊田自動織機、トヨタ車体(株)、
(株)豊田中央研究所、豊田通商(株)、トヨタ
紡織(株)、日野自動車(株) [五十音順]

7 近畿エリア

環境学習 愛知ターゲット No. 1

ダイハツ工業(株)
工場公開イベントにおける
生物多様性啓発活動
実施日 2016年5月15日(日)
場所 滋賀(竜王)工場(滋賀県蒲生郡竜王町)

実績 参加人数:4,000名
(2016年から)

生物多様性啓発ポスターを掲示することで、
多くの方に生物多様性という言葉と工場敷
地内に地域の多様な生物が生息していること
をお知らせしました。

8 中国エリア

森林保全・里山整備 愛知ターゲット No. 1・5・15

(株)ジェイテクト
とくしま協働の森事業への参画
実施日 2016年11月6日(日)
場所 いきものふれあいの里
(徳島県名東郡佐那河内村)

実績 参加人数:24名、植樹:50本、間伐:40本
累計参加人数:120名、植樹:100本、間伐:300本
(2011年から6年間)

未整備になっている森林の整備を行うことで、
生物多様性を保全すると共に健全な森林環境
を整備しました。

4 北陸エリア

生態系保全 愛知ターゲット No. 1・9

トヨタ自動車(株)
白山の景色を守る外来種駆除・在来種保全
実施日 2016年9月24日(土)
場所 トヨタ白川郷自然学校 周辺
(岐阜県大野郡白川村)

実績 参加人数:68名、外来種駆除:84kg
累計参加人数:175名、外来種駆除:121kg
(2015年から2年間)

登山者の靴などによって持ち込まれた、白山
エリアでは外来種の「オオバコ」を、根切りという
道具を使って駆除作業を実施し、白山でしか
育たない高山植物を守る活動です。

5 中部エリア

ビオトープ・水域保全 愛知ターゲット No. 1・5・9

(株)豊田自動織機
ビオトープ生きもの観察会
実施日 2016年8月4日(木)
場所 大府駅前ビオトープ
(愛知県大府市)

実績 参加人数:17名
累計環境学習:200名、ビオトープ:1,100m²
(2012年から5年間)

ビオトープや外来種について勉強し、水辺で
生きものに触れ合ったり、外来種の駆除をする
ことで、水辺環境の保全に取り組みました。

1 北海道エリア

生態系保全 愛知ターゲット No. 1・5・9

アイシングループ
ウトナイ湖 遊歩道周辺 外来種駆除活動
実施日 2016年8月4日(木)
場所 ウトナイ湖
(北海道苫小牧市)

実績 参加人数:30名、外来種駆除:7,243本
(2016年から)

「日本野鳥の会」と協業で、ウトナイ湖遊歩道
周辺にて、オオワダチソウの駆除を在来種
環境保護活動として実施しました。

2 東北エリア

植樹・工場の森づくり 愛知ターゲット No. 1・5

トヨタ自動車東日本(株)
第8回植樹祭
実施日 2016年6月12日(日)
場所 岩手工場
(岩手県金ケ崎町)

実績 参加人数:750名、植樹:2,800本
累計参加人数:5,570名、植樹:22,724本
(2009年から8年間)

従業員および地域の幼稚園、小学校の皆さん
で集めたどんぐりの苗木を工場敷地内へ
植樹しました。

3 関東エリア

森林保全・里山整備 愛知ターゲット No. 1・5

豊田通商(株)
千葉県九十九里浜の
海岸林再生プロジェクト
実施日 2016年8月28日(日)
場所 殿下海岸(千葉県山武市蓮沼)

実績 参加人数:83名
累計植樹:1,500本、環境学習:192名
(2015年から2年間)

東日本大震災で被害を受けた九十九里浜海
岸林の再生を目指し、クロマツの植樹および
保全活動を行いました。

6 中部エリア

植樹・工場の森づくり 愛知ターゲット No. 1・5・19

愛知製鋼(株)・三五コーポレーション(株) 協力
森2(モリモリ)イベント
実施日 2016年11月12日(土)
場所 中新田緑地(愛知県東海市)
ECO35(愛知県名古屋市)

実績 参加人数:70名、苗木作り:210ポット
累計参加人数:381名、植樹:1,200本、苗木作り:420ポット
(2013年から4年間)

「企業の森をつなぐPROJECT」と協業し、当社所有の
2万㎡の緑地を将来カブトムシがすみ暮らしていくことを
目標に植樹や苗木づくり活動を継続。2016年度の苗木づくり
用のどんぐりは、三五のECO35より。(つなぐ活動の一環)

植樹・工場の森づくり

植樹をすることで豊かな森林をつくり、近い将来、生態系が回復する
ことを目指しています。また、各社が工場内に植樹をし、森づくりを
することで生態系の回復に貢献し、緑を「つなぐ」活動をしています。

愛知ターゲットNo. 1・5
豊田合成(株)
工場の森づくり
実施日 2016年5月21日(土)
場所 西瀬口工場
(愛知県稲沢市)

実績 参加人数:600名、植樹:3,000本、実施面積:510m²
累計参加人数:34,000名
(2009年から8年間)

愛知ターゲットNo. 1・19
トヨタ紡織(株)
トヨタ紡織グループ「環境の森」加子母
森づくり活動
実施日 2016年10月15日(土)
場所 環境の森、福岡の森
(岐阜県中津川市加子母地区)

2008年から年に約6回、7haの森林整備活動を
継続しています。活動を通じて植林地の育成と
里山や森林・自然保護など社員の環境意識の
向上を図りました。地域交流活動を通じて地域
との相互理解を深め、活動を盛り上げています。

ビオトープ・水域保全

生物多様性を維持するため、生物が安定して生息出来る空間
(ビオトープ)の確保や、水辺の清掃活動などを実施することで生育
環境を良好に維持する活動を実施しています。

愛知ターゲットNo. 1・14
愛三工業(株)
鞍流瀬川 クリーン活動
実施日 2016年6月4日(土)
場所 鞍流瀬川
(愛知県大府市)

川幅10m程の小く浅い川ですが、所々に護ま
での深みがあり、ヘドロが堆積して、臭気を放つこ
ともありました。水生生物や野鳥にとってより良い
水辺となり、地域の方々にもさらに親しめる川と
なることを目指して活動を行っています。

実績 参加人数:29名、回収したゴミ:220kg
(2016年から)

生態系保全

生態系を守るためには、生物多様性そのものを知ることが必要です。
そのため、生物のモニタリング調査や、そこで知りえた希少種の保全
のための活動を実施しています。

愛知ターゲットNo. 1・5・12
トヨタ自動車(株)
表浜海岸 アカウミガメ産卵地保全
実施日 2016年4月2日(土)
場所 赤羽根海岸(愛知県田原市)

本州最大のアカウミガメ産卵地である表浜海岸が
砂の流出により危険に直面しています。昔の様な
砂浜に戻そうと、従業員と家族で、砂の飛散防止を
行う「堆砂垣」づくりを4年、今年から「葦(あし)」
を活用した「草方格」づくりに挑戦しました。6年間
の保全成果で、砂利だらけの浜に砂を堆積する
ことができました。

実績 参加人数:164名
累計参加人数:937名
(2011年から6年間)

環境学習

未来の環境活動の担い手となる子供たちへ環境を学ぶ機会を提供、
また、環境意識啓発のため、生物多様性への取り組みや活動などを
知る機会を提供しています。

愛知ターゲットNo. 1・19
トヨタ車体(株)
「ふれ愛パーク」環境学習
実施日 2016年8月26日(金)
場所 本社・富士松工場
(愛知県刈谷市)

「自然と調和する工場づくり」を目指し、ふれ愛
パークで「生物多様性保全」と「ESDの推進」に
努めています。ふれ愛パークの水辺で水生生物
を体験や水浄化の実験を行うプログラムで
自然への親しみや興味をもってもらう。環境に
優しい行動ができる工場づくりを推進します。

実績 参加人数:20名
累計参加人数:500名、ビオトープ:約5,000m²
(2014年から3年間)

- 森林保全・里山整備
 - ビオトープ・水域保全
 - 生態系保全
 - 環境学習
 - 植樹・工場の森づくり
- 活動数
1 5 10



【発行人】オールトヨタ自然共生ワーキンググループ 分科会②

リーダー:アイシン精機(株) 安全衛生環境部 / 服部・大谷・大脇

メンバー:アイシン・エイ・ダブリュ(株) 安全環境部 / 藤井

(株)デンソー 安全衛生環境部 / 國枝

豊田通商(株) 安全・環境推進部 / 松浦

ダイハツ工業(株) 環境室 / 中段

トヨタ自動車(株) 環境部 / 大石・青山

日野自動車(株) 安全環境推進部 / 田村 (※五十音順)

【事務局】トヨタ自動車(株) 環境部

【発行日】2017年6月

